

（午後4時25分 再開）

○議長（中本正人君）休憩前に引き続き、会議を開きます。

日程に従い、一般質問を行います。

順番7、5番 坂口君。

〔5番（坂口親宏君）登壇〕

○5番（坂口親宏君）皆さん、こんにちは。坂口親宏です。ごめんなさいね。きょうは7番手まで回ると思ってたんじゃないかと思うんですけども、皆さんお疲れですね。ごめんなさいね。

私、マイクの前を離れましてから、時計を見ずにしゃべるくせがついてしましましてね。随分時間に無頓着にしゃべるくせがついてしまいました。時計の針は承知をしているんですが、ひょっとすると5時を少々、あるいは大幅に回るかもしれませんが、その際はどうかお許しをいただけたらというふうに思います。

きょうは7番手ということでございまして、鳳啓助ですね。はい、ポテチンと。ここで、くすっと笑っていただいた方は、私と同じ青春時代、同じエンターテインメントで過ごされた方だと思うんですが、どん引きをされた方は、少々お若い方だと思います。若い方にはなかなか言葉が通じないフレーズがございますよね。きのうは私、4時起きでございまして、夜も結構遅かったんで、帰ったらもうボタンキューでね。この、ボタンキューというのが、なかなか若い世代には伝わらない方が多いですよ。このボタンというのはわかるんですが、キューって何やとよく言われるんですけども、ボタンキューって皆さんおわかりになりますよね。もう一つ、なかなか

若い世代に伝わらないのが、皆さんが仕事をしている、作業をしている、そんな中で、すいません、私一人、お先にドロンしますというのがありますね。私、しょっちゅう、局で働いていたときには、私、すいません、先にドロンしますって言うてたんですけども、このドロンというのがよくわからない。

きょうは防災関係の話をしませう。田辺市消防本部、そして和歌山県西牟婁振興局ではドローンを既に導入しているんですけども、橋本市は一足早くドローンできますように、危機管理監から前向きなご答弁をいただけたらと、こんなふうに思います。

きょうは時計の針を見ながらということになるんですが、相変わらず空気が読まれへんやつやなと思われるかもしれませんけれども、きょうは私はまさか回ってくるとは思っていなかったんで、自分が用意しておりました通知書、これは赤を入れたり、コメントを書いたり、一週間丁寧に準備をしてきたんですけど、きょうは家に忘れてきてしまいました。きょうは事務局がつくっていただいた、この一般質問通告書を朗読をさせていただこうと思うんですけども、危機管理、防災では、備えあれば憂いなしと言いますが、これから防災を語ります。そんな私は、防災を語る資格がないかもしれませんけれども、きょうは前向きなご答弁をいただけますようお願いをしたいと思います。

それでは、通告書を朗読させていただこうと思います。お手元の通告書、目を通しながら理解をしていただけたらというふうに思います。

1番目、防災における市民への情報伝達と

災害発生時にドローンを使つての情報収集について。

小さい項目の一つ目、台風や集中豪雨などの自然災害が予想される場合、現在、市民に対し、どのように防災情報を伝達しているのか。

小さい項目の二つ目、現在運用されている情報伝達に加えて、文字情報伝達手段の多様性を図るため、プッシュ通知機能を持つスマホ用防災アプリを導入してはどうか。

小さい3項目め、さきの6月市議会、私の一般質問、質問項目6番目、本市におけるドローンの評価について。災害発生時に情報収集力を持つドローンをどのように利活用できるのか。その後、導入に向けて調査研究の進捗と成果はどうでしょうか。

小さい項目の四つ目、11月に予定されている地域防災訓練において、既に和歌山県で導入されているドローンのデモンストレーション操縦・飛行を計画し、性能や利活用の方法を検証してみてもどうか。

これが、以上、大きな項目の一つ目になります。

続いて二つ目になります。はしもとオムレッツのさらなるPRと情報発信、利用者の利便性を図るため、はしもとオムレッツ・アプリを制作してはどうか。質問項目1の二つ目、防災アプリと併用できる観光防災アプリとして共同制作し、導入できないか。その可能性を伺います。

橋本市は一足お先にドローンできるのかどうか、危機管理監からの前向きなご答弁をお願いいたします。

○議長（中本正人君）5番 坂口君の質問項目1、防災における市民への情報伝達と災害発生時にドローンを使つての情報収集に対する答弁を求めます。

危機管理監。

〔危機管理監（坂本安弘君）登壇〕

○危機管理監（坂本安弘君）まず、1点目、2点目の、防災における市民への情報伝達について、あわせてお答えします。

本市での災害時の情報伝達は、本市からできるだけ多くの手段を用いて情報発信を行うとともに、さまざまなメディアに情報を提供し、幅広く情報を公開することで、市民の方々に確実に情報を伝達できる体制を構築しています。

情報発信の手段としては、防災行政無線や広報車を使った音声による手段と、エリアメールや緊急速報メール、防災はしもとメール、市ホームページ、フェイスブック等の文字による手段で情報を発信しています。直接市内全域に一斉に情報を発信できる防災行政無線については、放送が聞き取れなかった人のために、放送内容を確認することができる防災行政無線テレホンサービスを実施しており、毎月の広報はしもとで周知を図っています。

現在、防災はしもとメールの登録者数は4,628名であり、今後も登録者数を増やすため、毎月の広報はしもとに加えて防災訓練等でも積極的に周知を図っていきます。情報の公開については、FMはしもと、テレビのDボタン等さまざまなメディアを通し、幅広く情報を公開しています。

また、情報伝達の強化のため、今年8月には、ヤフー株式会社と災害に係る情報発信等に関する協定を締結しました。その内容は、災害時に、市ホームページへのアクセス集中を分散するためのキャッシュサイトの作成、アクセス集中により市ホームページがダウンしたときのヤフーブログの活用等であり、災害時に、より確実に情報伝達が行えるようになるものです。

また、ご質問のプッシュ通知機能を持つ防災アプリについても、同協定の無料オプショ

ンに、ヤフー防災速報というアプリの自治体からの緊急情報機能の利用があり、これは全国で750万件以上ダウンロードされていますが、利用すればヤフー防災速報の利用者の中で、橋本市を登録している人及び情報発信時橋本市内にいる人に対してプッシュ通知を行うことができるようになり、利用に向けて協議を重ねていきたいと考えています。

続いて、3点目、4点目の、ドローンを使っている情報収集について、あわせてお答えします。

6月議会では、災害時におけるドローンの有用性を認めた上で、現段階での購入が困難なことと、関係企業との防災協定について調査研究をしていきたいとお答えしました。

ドローンを購入する場合、風災害も想定すると安定性が求められ、8枚プロペラのドローンが必要であり、伝送装置や必要なものを加えると100万円前後の費用になると想定しています。また、技術習得については、今年度から和歌山県内で株式会社未来図がJ U I D A（一般社団法人日本U A S産業振興協会）認定の無人飛行機の操縦技術者・安全運行管理者養成スクールを開講しており、研修の費用は4日間で一人27万円必要であることがわかっています。

本市としては、4月の熊本地震を受け、備蓄食料と備蓄資機材の調達計画を最優先課題としており、このため、ドローンの購入については現在考えていません。なお、関係企業との災害協定については、協定締結済みの他市町村に聞き取り調査を行ったところ、災害発生時におけるオペレーターの派遣やドローン使用料、映像撮影費用を含めて1日20万円から25万円程度を想定していると回答がありました。

また、和歌山県が県職員に対して実施している操作訓練等を視察し、ドローンが実際の

災害時にどのような活動により、どのような機能を使って、どのような情報収集を行えるのかを確認するとともに、11月13日に開催する橋本市地域防災訓練において、ドローンを活用した災害時の情報収集訓練を実施すべく和歌山県に依頼をしており、参加について積極的に協力したいと前向きな回答をいただいているため、今後は訓練内容について担当者と協議を行っていきます。

○議長（中本正人君）5番 坂口君、再質問ありますか。

5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）ありがとうございました。

それでは、細かい質問になりますけれども、いくつかこれからさせていただこうと思います。今教えていただきました防災はしもとメール、現在の加入者数なんですけれども、私も入っております。恐らく議員の皆さんも加入していただいているのではないかと思います。この防災はしもとメールの加入者数ですね。それと、当然のことながら、さらなる加入者を募るためにいろいろな広報をさせていただいていると思うんですけれども、その広報は現在どのようにされていらっしゃるのか。

それと、もう一つ、エリアメール、緊急速報メールというご紹介がありましたけれども、私、何分勉強不足でございまして、これはどういうふうになっているのか。どう違うのか。エリアメールというのはよく聞くんですが、緊急速報メールと何か違いがあるのでしょうか。エリアメール、緊急速報メールで、私まだ受け取った記憶がないんですけれども、本市で発信をされる場合、どのような内容がエリアメール、緊急速報メールで発信されることになるのでしょうか。いくつかメール関係で絞った質問をさせていただきました。

○議長（中本正人君）危機管理監。

○危機管理監（坂本安弘君）まず、防災メールの登録者数でございますけれども、現在4,628件でございます。人口当たりにも占める登録率ですけれども、7.16%でございます。PR等につきましても、毎月の広報紙であったり、各地域で開催されます防災訓練等で啓発をしておるところでございます。

それから、エリアメールと緊急速報メールについてでございますけれども、名称が違っただけでございます。ドコモではエリアメール、auとソフトバンクでは緊急速報メールと呼んでおるものでございます。

通常、エリアメールなり、緊急速報メールで発信されますのは、気象庁が発信する緊急地震速報であったり、気象等に関する特別警報、消防庁から発信される国民保護情報、地方自治体が、例えば、橋本市が発信する災害避難情報を特定のエリアへ一斉配信するサービスということになります。本市が発信できますエリアメール、緊急速報メールにつきましては、避難準備情報であったり、避難勧告、避難指示等の避難に関する情報を配信する可能性がございます。

○議長（中本正人君）5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）ありがとうございます。

一つ、老婆心ながらお尋ねをいたします。4,628件、加入率7.16%はどのように受けとめていらっしゃるのか。まず、それを伺いましょうか。あと、エリアメール、緊急速報メールは、今のご答弁で十分で結構でございます。

○議長（中本正人君）危機管理監。

○危機管理監（坂本安弘君）近隣を少し調べさせていただきました。その中では、岩出市が13%ということで率的には非常に高い、うちに比べて倍近い加入率でございます。ただ、それ以外の海南市、紀の川市等につきましては、橋本市よりも加入率、登録率は低い状況

であります。決して7.16%が自慢できる数字ではございませんので、今後、より一層啓発に力を入れてまいりたいというふうに思っております。

○議長（中本正人君）5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）ありがとうございました。

続いて、防災行政無線についてお尋ねをいたします。これ、私、小原田の防災センターの近くに住んでおまして、よう聞こえてね。近くに住んでいるところは結構なんですけれども、この防災行政無線、今ご答弁の内容では、直接市内全域に一斉に情報を発信できる防災行政無線というふうなお話をさせていただいたんですけれども、市内全域に、本当にこうなったらよしいわなと思うんですけれども、こうなったら情報の伝達は文句ないんですけれども、現在、危機管理室では、この防災行政無線についてはどのような問題意識を持っていらっしゃるのか。いろいろとデメリット、メリットもいろいろあると思うんですが、どんなことを考えていらっしゃるのでしょうか。

○議長（中本正人君）危機管理監。

○危機管理監（坂本安弘君）メリットとしては、先ほども答弁で言わせていただいたように、一つの情報を一斉に配信できるというメリットがございますし、それを補完するサービスも備えておるところではございません。

デメリットでございますけれども、デジタル防災行政無線ということで、そのときの気象状況によっては、非常に聞き取りにくい場合があったり、逆に、声が大きくて騒音であるというような、聞き取りにくいと聞こえ過ぎるという、いろんなそういう市民等からの情報をいただくことがございまして、なかなかこれが、簡単に全てが満足できるというもの

ではないというふうには感じております。

○議長（中本正人君）5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）ありがとうございます。

では、少しお尋ねするんですけれども、一番最悪の状況を考えまして、夜、風雨の夜、屋内で窓を閉め切った状態で、果たして防災行政無線が聞こえるのかどうか。聞こえない世帯というのは市内全域でどのくらいあるのかというようなことは、把握をされていらっしゃるのか。もし、これが把握できていないとすれば、今後どのような方針が必要なのかということをお尋ねいたします。

○議長（中本正人君）危機管理監。

○危機管理監（坂本安弘君）先ほども申し上げましたように、気象条件等によって聞き取り具合が変わってくる場合がございます。雨の音であったり、風の音であったり、風の方向であったりということで、その都度その都度、聞きやすさ、聞こえにくさというのが違ってくる場合がございます。

市民の方々からそういった聞こえにくいとかというような連絡をいただきますと、直接私どもの職員が、そのお宅付近にお伺いをさせていただいて、もちろん放送のある時間ということになりますので、2時半であったり、5時であったりということになるんですけれども、状況を確認させていただいております。必要に応じてスピーカーの方向等、若干変えさせていただくような対応をとってございます。

○議長（中本正人君）5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）ありがとうございます。安心いたしました。

老婆心ながらも一つお尋ねいたします。防災行政無線のテレホンサービス、これはなかなか防災行政無線が聞き取れにくかった場合、ある電話番号にかけると、その同じ内容

が聞こえるサービスなんですけど、これはどのくらいの利用者数があるんでしょうか。一月でも結構ですし、1年でも結構ですから、どのくらいの利用者数があったんでしょうか。もしそれがどこからかかっているのかわかれば、どの地域が非常に難聴地域なのかわかる資料になると思うんですが、このあたりはいかがでしょうか。

○議長（中本正人君）危機管理監。

○危機管理監（坂本安弘君）今回の件もございまして、直接フリーダイヤルの電話サービスでございますけれども、NTTのほうに確認をさせていただきましたが、ご存じのように電話料金といたしますのは、通話時間であったり、通話の距離であったり、そういったことでいろいろ変わっておりますので、1回電話をすればいくらというものではございませんで、回数等は何件かかってというのは月々ではわかりません。今、ここで申し上げられるのは通話料金であります。現実的にはほとんど利用されていないのかなというふうなことがわかります。4月が108円、5月が305円、6月が702円、7月が148円、8月が351円、今年度の数字でございますが、この通話料しかわからないのが現状でございます。

○議長（中本正人君）5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）あまり多くないのかなという感じがいたします。

北日本の先日の台風の被害、土砂災害の被害、それに伴いまして人命が失われております。避難勧告、避難指示、避難準備情報といったところは、人の命に直接かかわる情報だと思います。生きた情報をいかに早く市民の皆さんにお届けできるのかということところは、今後さらにきめ細やかな情報収集をして、橋本市内のどの地域に防災行政無線が届きにくいのか、あるいは防災はしもとメールをさらに普及をさせて、一人でも多くこの危険情報、

あるいは防犯情報、防災情報を入手していただけるように、そんな努力をしていただきたいと思います。

この防災行政無線というのは、本当に痛しかゆしのところがありまして、今、危機管理監がお話をしてくださいましたように、ある方にとっては、これは大きな、スピーカーの近くに住んでいらっしゃる方ですかね、騒音にしか聞こえないというような方もいらっしゃいます。これは防災行政無線というのは人の命を預かる無線、音声、スピーカーです。言ってみれば現代の稲むらの火というようなものでございます。ですから、これをいかに利活用して、有効に活用して、市民の皆さんに生きた情報を早く届けるのか。これをぜひまた研究をしていただきたいと思います。

私の手元に、大阪市福島区役所に設置されたLRAD360Xという、そういう導入されました次世代型防災行政無線というのが紹介をされています。ネットで調べていただきましたら、次世代型防災行政無線スピーカーです。このように調べていただけましたら、すぐにヒットすると思うんですけども、鍋が三つそろったような鍋型のスピーカーです。今使われているスピーカーでしたら、一方向にしか届かないということがありますから、なかなか全て、360度届きにくいという欠点があると思うんですけども、このLRAD360Xというのは、360度全方位に死角なし、かつ広範囲への音声伝達が可能だということですね。マックスの性能を生かせば、半径およそ2.2km、出力70dBの広範囲をカバーすることなんですけれども、こういった超世代型、次世代型の無線スピーカー、これをすぐに橋本市で導入してほしいというようお願いではありません。こういったスピーカーも徐々に日進月歩で性能が開発されています。防災行政無線のいわゆる聞き取りにくいとこ

ろ、難聴地域ですか、非常に聞き取りにくいところ、ぜひ調査をしていただいて、どのようにすべきかご判断をいただきたいと思います。

それと、もう一つご紹介をさせていただきたいのが、防災ラジオです。防災ラジオ。これもいろいろ日進月歩で、いろんな技術が開発されているんですけども、防災ラジオって危機管理監、どんなイメージを持たれてますか。橋本市では防災ラジオというのは、私、ちょっと勉強不足で申しわけないんですけども、既に導入されているんでしょうか。防災ラジオです。よく日曜大工センターで、サイレンがついて、それと携帯電話が充電できて、FM・AMラジオがついてというような防災無線でないラジオなんですけど、何かおわかりになりますか。そういう防災無線、いわゆる緊急告知防災ラジオです。ごめんなさい。緊急告知防災ラジオです。こういうのをご存じですか。緊急告知防災ラジオ。私が今申し上げた防災ラジオ、充電できる、ライトがついている、サイレンが鳴るような防災ラジオではなくて、そんな防災ラジオがあるのはご存じでしょうか。ちょっと防災ラジオの認識についておたすねします。その間に、私、資料準備します。どこに行ったのか、ちょっとわからなくなってしまいましたので。防災ラジオ、ご存じですか。

○議長（中本正人君）危機管理監。

○危機管理監（坂本安弘君）誠に申しわけありませんが、存じ上げておりません。

○議長（中本正人君）この際、議長より申し上げます。本日の会議時間は議事の都合により、あらかじめこれを延長します。

5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）申しわけありませんね。あと10分少々ですか。時間あまり気にせずしゃべらせていただいてもよろしいでしょう

か。

緊急告知防災ラジオ、私も結構せっかちで、そう言われると結構早口になってしまいますけれども、普通でよろしいんですね。これはバナナFM、和歌山市にあるコミュニティFMですね。87.7MHz、バナナFMが開発している防災ラジオなんですけど、非常にすぐれものでね。場面としては、地震が来る直前、津波が来る前、あるいは被災地生活中、そういったところに、電源がオフになっていまして自動的に電源がオン、そして自動的に最大音量で緊急放送がされる。それから、該当のFM局以外の局を聞いていても、自動的に音声流れるというようなすぐれものなんですけれども、大雨の日、防災行政無線が非常に聞きづらいことがあるケース、あるいは、より確実に、より迅速に緊急防災情報を伝達したい場合、これを持っていたら、高感度のラジオですので、万一被災に遭ったときにも、いろいろとライフライン情報が伝達できるんじゃないかと思うんですけども、こういった高機能の緊急告知防災ラジオが開発をされております。

ですから、いわゆる先ほど申し上げました防災行政無線の聞き取りづらいところ、聞き取りづらいエリアに、こういった緊急告知防災ラジオ、特に、後でアプリの話もしますが、ひとり暮らしのお年寄りなんかでは、防災アプリも持っていないと。あるいは電話番号も何番かけたらええんかわからんなど。あるいは、雨の中、夜、窓を閉め切ったら何か聞こえにくいというところでも、この緊急告知防災ラジオがあれば、自動的に電源がオンになりまして、大きな音でお知らせしてくれますので、これはええんやないかなと思うんですけども、危機管理監、まだないでしょうか。こういうのがあるとい

うお願いではないんですけども、緊急告知防災ラジオ、将来的には興味を持って調べていただくことはできませんでしょうか。

○議長（中本正人君）危機管理監。

○危機管理監（坂本安弘君）そういう緊急時の情報が流れてくるのが、先ほど答弁でも申し上げましたエリアメールであったり、緊急情報メールであったりということではございます。そういうラジオがあるということにつきましては、一度私のほうで調べてはみたいと思います。

○議長（中本正人君）5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）ちなみに、お値段のほうは8,640円ほどです。ですから、大雨の日、防災行政無線が聞き取りづらいとき、より確実に情報伝達ができます。ほかの放送局のラジオを聞いていまして、瞬時にその該当局、FMはしもとと何とか協力をして、こういった緊急告知防災ラジオが開発できればいいかなというふうに思います。何かテレビショッピングみたいになってしまいましたけれども、失礼いたしました。

続いて、防災アプリについてお尋ねいたします。現在、ヤフーの防災速報アプリを導入しているということですが、私、実はいろいろと防災アプリを試しているんですけども、gooの防災アプリも使っているんですけども、gooは結構グーグルのマップ機能と連動して、さっき緊急避難場所の話がありましたけれども、そういった避難場所を瞬時に地図情報としてお伝えできる、あるいは、家族同士のコミュニケーション、いわゆる生存者連絡みたいな、そういった連絡もできる機能がついているんですけども、このgooの防災アプリと比較検討はされたんでしょうか。なぜヤフー防災速報なんだろうか。

○議長（中本正人君）危機管理監。

○危機管理監（坂本安弘君）先ほども答弁させていただきました、ヤフー株式会社との災害に係る情報発信等に関する協定、この協定に基づきまして、ヤフーの防災アプリが無償で使えるということでございます。

g o oのアプリにしましても、通常の気象庁等から発信される避難情報であったり、地震情報であったり、豪雨予想であったり、土砂災害であったり、こういったものはg o oでも無償で提供されます。ただし、避難に関する情報、これは市のほうが入力をしていく必要がございますが、先ほど議員がおっしゃられた避難情報の発令時の避難場所の指定ですとか、避難所の開設状況、救援物資や洪水など避難生活に関する情報、断水や給水等ライフラインの情報等々が無償で情報提供ができるのが、協定に基づくヤフーでございます。g o oはこれには費用がかかるというふうに確認しております。

○議長（中本正人君）5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）ただほどいいものはありませんからね。それで結構だと思います。

一つ、勉強のためにお尋ねいたします。先ほども申し上げました避難勧告、あるいは避難指示、避難準備情報というような命に直接かわるような避難情報、こういった情報というのは、当該地域についてはどのように伝達をしているのか。これは、広報車で回るだけなのか、あるいは今までおっしゃったような防災はしもとメールであったり、エリアメールであったりとか、そういった部分で対応していくのか。これはできるだけ瞬時に、その該当地域に伝達をする必要があると思うんですが、万一避難勧告、避難指示が出た場合は、現在の橋本市の体制ではどのような方法をとっているのか、お尋ねいたします。

○議長（中本正人君）危機管理監。

○危機管理監（坂本安弘君）まず、防災行政

無線、それから防災はしもとメール、それから広報車等が一つの手段として考えられます。それから、これから非常に有効になってくると思われまますが、それぞれの自主防災会にお願いをして、そういった情報を流していただくということも考えていかなければならないというふうには思っております。

○議長（中本正人君）5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）ありがとうございます。

避難指示、避難勧告、出るようなケースもあってはならないんですけども、万一出た場合には、瞬時にその情報が伝達できるような方策というのを、日々研究をしていただきたいというふうに思います。

この項目、最後の質問になりますが、ドローン関係です。先月、消防長のご紹介をいただきました。田辺市消防本部にドローンの視察、見学に行っていました。すばらしいファントム型の、最新の、一つ古い型らしいんですけども、ファントムのドローンを実演でパイロット飛行を見せていただきました。

本当に50mぐらいのところを旋回をして、離着陸なんですけれども、全てオートプログラミング。着陸はどうするのかと思ってましたら、全然クラッシュすることもなく、本当に寸分の狂いもなくびたっと、まさにびたっとです。びたっととまるような、それぐらいの精度で着陸ができるような性能を持っています。

このドローン、田辺市消防本部がまだ実践では使っていないということなんですけれども、ドローンの購入について、現在考えていませんというご答弁でしたけれども、6月議会でのご答弁、ドローンの実用性は非常に高いですよという内容と整合性に少し欠ける気がするんですが、ドローンの購入は、今後優先順位としてはどのようにお考えになってい

るのか、お尋ねいたします。

○議長（中本正人君）危機管理監。

○危機管理監（坂本安弘君）これも壇上でも答弁をさせていただきましたが、有用性とかということについては、非常に有効であるというふうには感じております。これは6月の答弁と同じでございます。

ただ、6月議会でドローンの質問をいただいて、また9月でもいただいておりますが、優先順位として、我々は、まず備蓄食料であったり備蓄資機材の確保、それから、防災計画の見直し、特に、大災害時の職員の参集等について、いろいろと研究をしなければならない部分がございますので、ドローンにつきましては6月にも答弁させていただいたように、そういう協定の中で民間の事業者任せにいくべく、そういう調査研究をしていきたいというふうに思っております。

○議長（中本正人君）5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）ありがとうございました。

一足お先にドローンというわけにはいかなかったようですけれども、ぜひ、またいろいろと研究をしていただきまして、ちなみに、私が持っている手持ちの資料では、1泊2日で免許が取れますというドローンのスクール、19万8,000円というのがありました。また、その値段の格差とかというのはいろいろあると思うんですけれども、将来的にはドローンのパイロットを橋本市で養成をしていくというようなことも、一つ視野に入れていただきたいなと思います。

この場をお借りしまして、先月大変お世話になりました田辺市消防本部通信指令長、田辺市の消防本部署員に大変お世話になりました。改めてお礼を申し上げます。

以上で1項目めの防災関係の質問を終わります。

続いて二つ目の観光関係の、オムレツ関係のご答弁をいただきます。

○議長（中本正人君）次に、質問項目2、はしもとオムレツのさらなるPRと情報発信、利用者の利便性を図るアプリ制作に対する答弁を求めます。

経済推進部長。

〔経済推進部長（笠原英治君）登壇〕

○経済推進部長（笠原英治君）次に、はしもとオムレツ・アプリを防災アプリと併用して制作してはどうかのおただしについてお答えします。

はしもとオムレツは各種メディアに取り上げられることも多く、のぼりなどのPR効果もあり、市民の皆さまをはじめとして周知が進んでいます。同時に、オムレツの提供場所などの問い合わせも増加しており、さらなる情報の発信の必要性があると認識しています。

情報発信ツールの一つであるアプリケーションは、スマートフォンなどの端末機を利用し、その位置情報から地域の店舗・商業・観光施設・イベントなどの情報をタイムリーに入手できるようになっており、本市を訪れる方々にとって非常に利便性の高いものです。

また、最近では、訪日外国人観光客にも対応できる多言語表記のものも利用されています。このような観光アプリケーションを市単独で制作するのは困難であります。

現在、本市では世界的にユーザーが多く、容易にかつ安価に利用できるフェイスブック・ツイッター・ラインアットなどのアプリケーションを使ったソーシャルメディアを活用し、観光、イベントに限らず、福祉、子育て、教育など、さまざまな情報をタイムリーに市民の皆さまに発信しています。

なお、8月末まで試行で利用していましたラインアットを9月からは本格的に活用し、QRコード等で登録いただいた方にさまざま

な情報をお知らせしております。ラインアットの9月からの主な情報として、高野口にぎわいフェスタ、デバ祭のイベント情報や、こののほっとルームの行事、くらし応援隊養成講座、子育て応援教室などをお知らせするとともに、各情報を専用サイトにリンクできるようにして、より詳しくお伝えしているところ です。

今後、ラインアット等を活用した情報発信の中で、議員おただしの、はしもとオムレツの情報もお知らせしていきたいと考えています。

なお、議員の皆さまからも、市民や、市外、県外の皆さまにお知らせされたい情報がございましたら、シティセールス推進課までお問い合わせ願います。

○議長（中本正人君）5番 坂口君、再質問ありますか。

5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）ありがとうございます。

経済推進部長がいろいろと手配をいただきまして、ラインアットというのは非常にいいですね。これはもちろん無料ということで、ぜひ、いろいろとこれから使って橋本市の情報を発信していただきたい、こんなふうに思います。

我々、私ども議員も22店舗のはしもとオムレツ、気の合う議員同士、きょうはお昼いっぱいのはしもとオムレツの違うお店に行ってみようということで、一店一店行ってみてらんですけれども、こちらにお座りになっていらっしゃる職員の皆さんも、ぜひ、はしもとオムレツ22店舗、全部制覇するようつもりで、こちらのお店は本当に盛り付けがええなとか、味がおいしいなとか、あるいは、中にいろいろと橋本の具材が入ってるなとか、いろいろな感想をまた職員の皆さんに伝播をしていた

だきたいというふうに思います。

一つ、お尋ねをするんですけども、以前私もこの本会議、一般質問でお尋ねをしたことがあるんですが、GPSを利用したマップ機能を持つアプリが、ほかの自治体の観光面でも採用されているところがあります。一つのお店、グーグルマップと連携をされて、自分の現在いるところからそのお店まで自動的に案内してくれるものなんですけれども、このはしもとオムレツで、参画店舗へのそうしたグーグルマップなどでの誘客ができないのかどうか、ここで経済推進部長にお尋ねいたします。

○議長（中本正人君）経済推進部長。

○経済推進部長（笠原英治君）観光スポットであったり、店舗等への誘導については、現在あるホームページのマップに地図アプリでも最もポピュラーな、今議員のほうからおただしありました、GPS機能のあるグーグルマップアプリへ誘導リンクしていくことによって、地図アプリを使ってわかりやすく、内容からその場所を案内できると思います。

現在、情報発信のアプリとして利用しておりますラインアット、そのソーシャルネットから市のホームページや店舗のホームページへリンク誘導していきまして、地図情報を案内していきたいと考えております。

○議長（中本正人君）5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）ありがとうございます。

アプリの開発というのは、橋本市単独ではなかなかできにくいところもあるんじゃないかと思いますが、関西空港におり立った外国人観光客にとっては、高野山も橋本もかつらぎも九度山も、本当に一つの小さなエリアですから、この周辺1市3町へのインバウンドへの誘客をするために、周辺町村と連携をした、インバウンドの集客をするための観光アプリの制作というのはできないのかなという

ふうに思いますけれども、可能であれば外国人観光客の現在の入込客数、前もお尋ねしたことがあるデータなんですけれども、今お持ちでしたらそのデータをご紹介いただきながら、広域での観光アプリの開発というのは、本市だけ単独ではできないのであれば、周辺でできないかどうか。その可能性について、もう一度、経済推進部長にお尋ねいたします。

○議長（中本正人君）経済推進部長。

○経済推進部長（笠原英治君）平成27年度の実績の最新情報が手元にごございますので、報告させていただきます。

和歌山県における観光入込客数は、対前年度比の108.1%、約3,339万9,000人に達しております。調査を開始して史上最高の客数となっております。特に外国人の宿泊客数なんですけど42万8,000人で、史上最高でありました平成26年度と比較しても140.9%と大きく増加しております。平成28年度におきましてもこの傾向が継続しております、本市の外国人宿泊数も平成26年度の4,407人に対して5,885人、対前年度比で133.5%増加しております。

しかしながら、本市を訪れてくれている外国人が著しく増加したという感覚はあまりないように、私どももそうですし、皆さまもそういうふう感じられると思います。

そういう意味から、現在橋本市では、周辺の市町村と広域観光事業体でありますDMOを来年にも設立したいと考えております。そのDMOの中で、インバウンドの観光客に向けて、本市を拠点に周遊していただけるような取り組みを、多言語のデジタル端末による情報発信なんかも含めて検討してまいりたいと思います。

以上でございます。

○議長（中本正人君）5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）ぜひ、近々にというわ

けにはいかないかもしれませんが、近い将来、広域での観光アプリというようなものも、ぜひお考えになっていただきたいというふうに思います。

順番が前後しました。先ほど、気の合う議員同士で、はしもとオムレツのお店を一軒一軒食べ歩いているというようなお話をしたときにお尋ねすればよかったんですが、既に制作されている、このはしもとオムレツマップですね。非常によくできてましてね。お店の写真であったりとか、住所とか、あるいは電話番号も表記されていまして、非常にいいものだと思います。そのはしもとオムレツマップを、今お配りしている市報に挟み込んで、全戸に配布できないかどうか。これは、総務部長管轄、所管になると思うんですけども、このはしもとオムレツマップを全戸に配布できないかどうか、その可能性をお尋ねいたします。

○議長（中本正人君）経済推進部長。

○経済推進部長（笠原英治君）はしもとオムレツは、橋本市の特産品であります鶏卵を、さまざまなほかの地域農産品とあわせて、わかりやすく全国にPRしていくということで、食を通して橋本の魅力を発信していこうということで進めております。店舗や農業生産者などの意識を向上させることを、実は目的としております。

最近、本当に、壇上でもお話しさせてもらったように、メディアに取り上げてもらえることも非常に多くなりまして、少しずつ市民の皆さまの関心も高くなっております。ただ、私ども考えておるのは、市外、県外の方への誘客ということを考えておりますので、市民よりはむしろそちらのほうに力を入れております。

せんだってから作成しましたマップは、私とところで作成したものですので、これを広報

に入れるかどうかということにつきましては、一度検討はさせていただきますが、基本的に各店舗の宣伝広告という考え方もあることから、本来は店舗が連携して、自主的にそのマップを使ってPRをしていただけるのが適当ではないかというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（中本正人君）5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）ありがとうございます。

最後の質問になろうかと思えます。時間のほうもあと13分少々ですので、最後の質問にしたいと思えます。

観光防災アプリケーションということで二つ目はお尋ねしているんですけども、観光と防災、これを一緒にしようということですね。防災アプリ単独ではなくて、観光アプリ単独ではなくて、費用面でも、製作費、5足す5が10ではなくて5足す5が6、7になるような観光防災アプリ、これはほかの自治体でも既に導入されているところがあります。見知らぬ土地に来て安心して旅行を続けられるためのアプリ。それと、外国人観光客にとりましては、さらに緊急速報が配信されない課題をクリアできるというようなメリットがあります。あるいは地域特性を反映させるというメリットもあります。

平時の利用としては、観光情報に加えて世界遺産の登録も間もないということですから、わかりやすく安全に外国人観光客インバウンドにも情報を伝達できるというメリットがあります。

観光面と防災面、この二つのアプリケーションを一緒に制作しようというような、この観光防災アプリケーションというのは、非常に今後とも有益だと思えますけれども、一つ新聞をご紹介しておきたいと思えます。9月の6日、毎日新聞の記事です。金剛峰寺

にWi-Fiが導入されまして、外国人観光客にわかりやすく寺院内の紹介ナビアプリも制作をされているという、高野山では既にWi-Fiがお寺の境内にも導入されて、インバウンド専用のナビアプリも導入をされているということなんですね。利用客のコメントが紹介されていますね。高野山は歴史もあり興味深い。個人で旅行する外国人にシステムは大変に役に立つという、外国人の方のコメントも紹介されています。

橋本市はインバウンドの集客はあまりよくありませんよというお話でしたけれども、今後、広域で観光アプリを導入される場合、この観光防災アプリというのは非常に有益だと思うんですけども、最後にお尋ねをしたいと思えます。あかんもんはあかんと、できんもんはできんと、いつも厳しくやさしく言っていただける副市長に、いっぺん聞いてみたいと思うんです。あかんもんはあかんとおっしゃると思うんですけども、いっぺんやってみなはれと、これは言うてくれるんかどうか。あるいは、あかんもんはあかんとおっしゃるのか。この観光防災アプリケーションの開発については、副市長はどんなふうにお考えなのか、そのことをいっぺんお尋ねしてみたいと思えます。

○議長（中本正人君）副市長。

○副市長（森川嘉久君）ちょっとそのアプリなるものの内容、それから開発費用等、細かいデータを私は把握しておりませんので、この場で即答はさせていただきにくいんですけども、先ほどから高野町の取り組みもご紹介いただきましたので、つくるとしたら全く同じものをつくらないと、あまり広域的に役に立たないかなというふうには思いますので、そこらも含めまして、一度高野町の例を研究はさせていただきたいとは思いますが、費用の面で高額になりますと、これはちよっ

と実現はできないなということは申し上げておきたいというふうに思います。

○議長（中本正人君）5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）以上で一般質問を終わります。

○議長（中本正人君）5番 坂口君の一般質問は終わりました。

○議長（中本正人君）お諮りいたします。

本日の会議はこの程度にとどめ延会し、明

9月13日午前9時30分から会議を開くことにいたしたいと思います。

これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中本正人君）ご異議なしと認めます。

よって、そのように決しました。

本日は、これにて延会いたします。

ご苦労さまでした。

（午後5時16分 延会）